

幸せ

(二)年(二)組(三十四)番
氏名(石田 亜弥)

私は、台風23号による水害で、床上^{20cm} 浸かりました。20日、避難勧告が発令された後、母と姉と3人で公民館に避難しました。避難をする途中、川が道路と同じ高さまでできていて、公園は水にのみこまれていて、事の大きさを実感しました。公民館に着くと、私達と同じように避難している人がたくさんいました。その夜は、いつもと違う場所のせいかなかなか寝付けませんでした。

翌朝、外に出てみると、昨日の台風が嘘のように晴れていました。ですが、辺り一面水に浸かっていました。そんな中、堤防の近くまで行ってみると、堤防は決壊し、前まであった家が流されて、なくなっていたのです。それを見た途端、自分の家ほどうなっているのだろうかと不安でした。また、父は、一緒にいなかったのが、大丈夫かなと不安な気持ちで一杯でした。ですが、父とは合流できました。それから、家に帰ってみると、置け浮きあがり、棚は変形したり、悲惨な状態でした。次の日、もう水は引いていて、片付けの作業に入りました。自分の思い出の品など、宝物がたくさん減っていました。浸がってしまったけど、まだ大切に使っている物もあります。ですが、ほとんどは捨ててしまいました。心の奥では、残しておきたいと思っただけど、そんな事はできません。なので、どうも悲しさを、くやしさを一杯でした。でも、近所の友達や、親切ななど、皆さんの人が家の片付けを手伝ってくれました。その時、これが仲間なんだなと思いました。こんな人達が自分のまわりにいる自分は、幸せなんだと思いました。

また、今考えてみると、こうやって家族と共に暮らしていることがどれだけ幸か。思い出の品や宝物がなくなつたとしても、一番大切な、自分の命が無事だったこと。また、家族や友達と一緒に楽しい時間を過ごせること。そして、なによりも、あたりまえのようにある、毎日を、今こうして生きていくことが幸せだと思いました。